

燦々

SANSAN
光り輝く

JAとまこまい広域広報誌
燦々光り輝く
No.259



編集・発行

〒059-1693
JAとまこまい広域本部
TEL 0145-272241 FAX 0145-273941
北海道勇払郡厚真町錦町10番地2

令和6年6月10日
ホームページアドレス
http://www.ja-tomakomai.co.jp
メールアドレス
info@ja-tomakomai.co.jp

印刷 株式会社須田製版

平日にパパッと作りたい、簡単・時短のズボラレシピ

① 調理時間
20分

JA水戸女性部（茨城県）
が作りました！

サクラエビの 香りがアクセント♪ おこめ焼き



お好み焼きをイメージした具材
で、おこめを使っているので小麦
アレルギーの方も楽しめます♪

材料（8枚分）

• ごはん	お茶碗4杯分(600g)	• サクラエビ	10g
• ニンジン	1/2本	• 和風だし（粉末）	15g
• キャベツ	200g	• お好み焼きソース	適量
• 卵	4個	• マヨネーズ	適量

01 ニンジン、キャベツはみじん切りにする。



02 卵に和風だしの粉末を加えてよく溶き、ごはん①、サクラエビを加えて混ぜ合わせる。



03 ②を丸形に形を整えてフライパンに並べ、弱火で両面をよく焼く。



04 ③が焼きあがったら、ソースやマヨネーズをかける。
お好みでウズラの卵や天かすをトッピングするのもおすすめです♪

ワンポイント！

弱火でじっくり両面に焦げ目がつくまで焼くと、外はカリッと中はふんわり焼きあがりますよ！

特集 全本支所職員が集い交流を深める
またコンプライアンス研修を実施

ハスカップの花

燦々

SANSAN
光り輝く

No.259 CONTENTS

- 01 特集 全本支所職員が集い交流を深める
またコンプライアンス研修を実施
- 03 カメラレポート
- 07 ・ほうれん草部会目慣らし会・出荷原料説明会実施
出荷最盛期を前に販売力強化に繋げる
・震災で被害を受けた農地完全に復旧
厚真町幌内沢地区で震災後初となる田植えが再開
- 08 令和6年度 JAとまこまい広域
生産組織、組織代表者、事務局担当者名簿
- 09 ・理事会報告
・楠野前JA代表理事専務の訃報
- 10 期待の農力 市島聡さん
- 11 ワンポイント営農情報
- 12 あぐり講座
- 13 JAからのお知らせ
- 14 JAバンクアプリ もっと便利にご利用キャンペーン

裏表紙 平日に「V」つと作りたい、簡単・時短のズボラレシピ



6月下旬から順次出荷されるハスカップの花。ハスカップの花は二つの花から一つの実をつけることから「愛の契り」という花言葉があります。そのため織姫と彦星が一年に一度天の川で会える日とされている7月7日の七夕がハスカップの日とされています。



▲新人職員紹介で今後の抱負を述べる穴水職員



▲コンプライアンス研修

全本支所職員が集い交流を深める またコンプライアンス研修を実施

▲勤続30年表彰を受ける中村農業振興副本部長

JAとまこまい広域は4月25日、第23回職員研修大会を厚真町総合福祉センターで開催し、総勢148名が参加した。同研修はJA合併後から開催形式を変えながら職員の交流と研修をメインとして継続して実施している。今年度は、令和6年度の事業計画を上回る事業実績の達成に向け、本年度の重点方策などについての認識を共有すると共に、不祥事再発防止を徹底し、全職員の意思統一と職員間の交流により目標達成と信頼回復への機運を高めることを目的として開かれた。

開会に当たり宮田広幸組合長は「農協を取り巻く環境は、様々な影響で燃油・生産資材の高止まりなど、組合員の経営にとって向かい風が立ちはだかつています。本年度は職員の皆様の考えを聞く場を設ける予定です。色々な意見交換をさせて頂きこの変革期を皆さんと緒に乗り越えていけたらと思っています」と挨拶した。

研修大会に先立ちステージ上で全職員に向けて新採用職員紹介が行われ、登壇した新人は「皆さんと積極的にコミュニケーションを取りながら頑張っていきたいと思います」などそれぞれ初々しい挨拶をした。その他にも永年勤続(30年勤続)や資格取得者、昨年度の優績部署などの表彰が行われ、宮田組合長から表彰状と副賞が手渡された。

その後、(株)人材育成フォレストの松岡直人ビジネス研修講師から、ミスの防止とリスクマネジメントと題した研修の中で「人はミスを起こします。その前提に立たなければミスを防止することはできません。ミスが起こった時、人を責めるのではなく仕組み(物理的な仕組み・方法・ルールなどの改善に努めて下さい」と説明

を受けた。またミスを事前に回避するには報告・連絡・相談は不可欠で、報連相を躊躇してしまう原因についてグループ内でディスカッションが行われた。その中で「仕事の内容の理解が進んでおらず、その現象に対する重要度をまだ理解できていないのではないか」など様々な意見交換がなされた。またディスカッションメンバーは日頃接する機会の多い職員で構成されていたため、その場面のイメージを共有しながら実施できたため有意義な研修会となった。

閉会に堀弘幸専務は「これからチームとまこまい広域として知恵と力と経験を結集し業務にあたって頂ければと思います。また業務の仕方も時代と共に創意工夫し前例踏襲するのではなく合理的な方策を検討し改善して下さい」と挨拶し大会は終了した。

広域

ホクレン新採用職員の農協・農家実習

J Aとまこまい広域3名受け入れる



▲定植前に種芋をカットする作業

J Aとまこまい広域は令和6年度採用となったホクレン新人職員3名を5月7日～5月24日の期間で受け入れし、農協業務の実習と農家現場での実習を行った。

この実習はホクレンが求める人材を育てるための能力開発研修の一環として、入会後に行われる。新採用となった職員が北海道各地の農協で約3週間の実習を行い、農協や農家の実習を通して現場での体験を通して生きた知識を習得する。

J A概況や農協施設見学のほか、厚真職員親睦会が主催する観桜会に参加し職員の前で自己紹介した。農家研修では厚真地区の丹羽俊介さん、山田義雄さん、畑嶋宏謙さんの農場で馬鈴薯の定植やメ

ロンのわき目取り・田植え作業などを体験した。

実習を終えた新人職員は「全てが初めての経験で良い経験をさせていただいた」と話した。また「この実習を通して生産者は多大な苦労があることが改めて実感することができた。これからホクレン職員として生産者の苦労軽減できるように努めたい」と意気込みを語った。

また受け入れた生産者は「この部署に配属されるか分からないが、この農家での研修を活かしてホクレン職員として頑張ってもらいたい」と話した。

今回、生産者やご対応して頂いた生産者の皆様におかれましては、大変お忙しい期間に限らず受け入れ頂き誠にありがとうございました。

※今回受け入れたホクレン新人職員
高橋利来さん（24歳）、松浦大進さん（23歳）、山口優馬さん（22歳）



▲カボチャの種まき作業

苦小牧

スマイルレディと女性部苦小牧支部合同

ハーバリウム製作実習開催



▲選ぶ瓶の形や花材、オイルの種類や配置の仕方でも様々な表情を見せる。



▲材料のほとんどを100円ショップで見つけることができる。
参加人数が多いほど材料の種類を増やしやすい。



▲花材を長いピンセットを使い瓶の中に配置。
小学生にもできるほど作業は簡単ですがセンスは問われます。



4月17日（水）、J Aとまこまい広域苦小牧支所の女性組織スマイルレディ（溝口千晴部長）と広域女性部苦小牧支部（飯田秀子支部長）が合同でハーバリウム製作実習を苦小牧支所会議室にて行った。ハーバリウムとは植物標本を意味し、ドライフラワーやプリザーブドフラワーをガラス瓶に入れオイルで満たしたインテリアフラワー。昨年12月の日胆地区女性部研修会で行われた研修を復習し、参加できなかった部員に伝える意味で開催された。選ぶ花材や配置の仕方でも様々な個性が現れる点に面白みがあり、

自然と会話も弾んだ。今後は各部員がそれぞれの家庭はもちろん、地域行事などで更なる普及に取組むとともに、苦小牧支部の恒例行事として引き続き開催していくことを検討している。

白老

白老和牛生産改良組合主催

獣慰霊祭開催



▲挨拶する阿部組合長

5月21日（火）、白老町真澄寺にて獣慰霊祭（白老和牛生産改良組合主催）が執り行われ、組合員および関係者ら24名が参加した。

獣慰霊祭は人々の生活の糧として犠牲となった家畜の御霊を供養し、命の恵みに感謝するために年1回行われている。

開催にあたり白老和牛生産改良組合の阿部高幸組合長は「2年前に町内で鳥イ



▲獣慰霊祭の様子

ンフルエンザが発生し、昨年も牛の伝染病が確認されました。物価高騰もあり家畜を取り巻く情勢は引き続き厳しい状況が続くものと思われまます。我々生産者も耐える時期が続きますが、一丸となり立ち向かわなくてはなりません。また、白老町は今年和牛導入70周年という節目を迎えます。白老牛肉まつりも開催されるため、町全体で盛り上げていきたいと考えておりますので、関係機関含めご協力をお願いいたします」と話した。

早来

令和6年度

第1回早来地区廃プラ一括回収

法令順守と適正処理に向けて

安平町早来農業用廃プラスチック適正処理対策協議会での廃プラ一括回収を、5月22日（水）、安平町遠浅にて行った。早来地区では年3回の一括回収を行っており、今回は、その1回目となる回収で43戸から、農業用ビニール・農業用ポリなど19,444kgが集まった。昨年

より2,358kg少ない回収結果となった。

廃プラスチックの不法投棄、野焼きは廃棄物の処理及び清掃に関する法律第十六条の二において禁止されており、違反すると5年以下の懲役、若しくは1,000万円以下の罰金または、その両方が科せられる。なお、法人の場合は3億円以下の罰金が科せられる。また、環境汚染にも繋がるため、農業者の方々には適正処理への意識と関心をさらに高めて頂きたい。

翌23日、北斗市にある日本公防株式会社が回収し、トレーラー4台で運搬した。



▲堆積された廃プラをトレーラーに積み込む様子

安平町早来農業用廃プラスチック適正処理対策協議会での廃プラ一括回収は、7月中旬に2回目の回収、11月中旬に3回目の回収を予定している。

追分

追分アサヒメロン初出荷・初競り
今年の販売目標金額
3億2百4十万円

春の陽気に名残を感じる5月9日。安平町追分地区特産のアサヒメロンが今年も初出荷を迎えた。

初出荷となったのは、追分旭地区の林出一樹さん。昨年より、1日遅く30箱少ない初出荷となり、計37箱を出荷。初出荷を迎えた林さんは「今年は前年より着果まで天気に恵まれ、玉の生育は良かった。しかし着果後の天気が悪く仕上げの管理に苦勞し不安もあったが、例年通り仕上がりが良く、糖度も乗り高品質なメロンを出荷できたことにほっとしている」と話してくれた。

出荷同日、追分野菜集荷場では、初出荷セレモニーが行われ、綺麗にネットが張られたメロンの姿が、安平町をはじめ、市場、JA、普及センターなどの関係者や報道陣にお披露目された。



▲検査員によるチェックが行われる様子



▲初出荷された高品質なアサヒメロン

合の安井貴志組合長は、「昨年は出荷で6万箱を超え、販売金額についても、3億円を超える実績を迎えることができた。今年度の出荷目標は、生産者26件と実践農場1組であり、栽培面積27・0ha、出荷数6万3千箱、金額3億2百4十万円の目標としている。この目標に向かいメロン組合は安心・安全で美味しいメロンを消費者に届け続けることを第一に、本日ご出席いただいた関係機関の皆様のご協力をいただきながら達成できるよう出荷に努めていきたい」と挨拶し、セレモニー後早速翌日の初競りに向けて共選作業が始まった。



▲初セリで取引されたアサヒメロン

穂別

品質向上のため
講習会を実施

むかわ町穂別地区令和6年度の米生産に向けて始動

4月24日から穂別二俣地区の二俣水稻共同育苗施設利用組合（清川三十四組合長）の共同稲伏せ作業が行われた。当組合は昨年11月17日に設立50周年を迎え、記念式典を挙行している。

水稻生産農家6戸で構成されており、作業には各戸2名以上出役し、1日当たり約4,900枚の育苗箱を作っている。今年度は委託も含め、約20,000枚を計画している。

清川組合長は「昭和48年に設立された当組合は、米情勢の変遷や大型機械の導入など、多くの変革と共に歩んできた。地域の労力省力化と良品質米生産を目的に、これからは組織一丸となって取り組んでいきたい」と意気込みを語った。

今回、稲伏せされた苗は、育苗機で芽させた後、ハウスに並べられ5月中旬の田植時期まで、構成員が交代しながら徹底した温度管理が行われる。



▲稲伏せ作業の様子



▲こぼれやすいため慎重に作業が行われた

また、JAとまこまい広域米生産振興会穂別支部（森本豊支部長）は26日、春期水稻現地集合研修会を5つの地区にて実施した。

東胆振普及センターの担当者より「令和5年度は記録的な高温により生育が早く進んだが、白未熟粒・胴割粒の発生、タンパク質含有率の増加、倒伏の多発により、収量・品質への影響が大きかった」と振り返った。

その状況下でも、例年通りの高位安定生産を達成できた農家の事例が紹介され、高温対策として「基本技術の確実な実施、ケイ酸資材の積極的な投入、出穂以降に適切な水管理を行うことが有効である」と説明があった。

生産者からの関心は高く、多くの質問を投げかけていた。



▲収穫までの一連の作業について確認した

厚真

厚真町で田植え始まる
好天と強風で苗管理に苦勞するが、
おおむね順調

JAとまこまい広域における今シーズンの田植えが5月9日にスタートした。当管内では245戸が作付けを予定しており、多くの生産者は5月中旬以降から始まる田植えに向け準備を進めるこの時期に、厚真町東地区の畑嶋謙宏さん（32歳）が先陣を切って田植えを始めた。

翌10日には、同町幌内地区の木戸正人さん（58歳）、桜丘地区の森田明央さん（57歳）、熊沢和明さん（68歳）、厚真地区の木村幸一さん（82歳）も後に続いた。

畑嶋さんは播種から30日程で約12cm（3・1葉）まで育ったゆめぴりかの苗を田植え機で次々と植えて行なった。今年の作付けは「ゆめぴりか」「ななつぼし」「えみまる（直播）」の3品種。約41haの



▲先陣を切って田植えをスタートした畑嶋さん

水田に約2週間かけて植付けされる予定だ。

畑嶋さんは「今年は日差しの強い日や風が強い日が多く、ハウスの温度管理は苦勞しました。また好天の影響でハウス内温度が高くなったため、苗はどんどん水を吸い成長が予定より早くなってしまった。そのため根の張りが弱く感じるので少し気がかりです」と本音を話してくれた。その他の生産者も同様に今年は苗の成長が早いようで、中には急ピッチで田植えの準備に迫られる方もいたようだ。

当JA管内では2,322haの作付けを予定し、約12,100tの収穫を予定している。また田植え作業は5月下旬にピークを迎え6月上旬ごろには全ての作付けが終了する見込みだ。



▲10日に田植えをスタートした木村さん

穂別

早期出荷をすることで
有利販売につなげたい

南瓜定植作業開始

5月3日より、むかわ町穂別地区の主要農産物である「南瓜」の定植作業が始まった。

JAとまこまい広域南瓜生産部会穂別支部（石崎憲一支部長）では、生産者66戸、作付面積約292ha、生産量4,175t、販売高431,120千円を計画している。

この時期に定植された南瓜はトンネル栽培を行っており、霜の被害を軽減するとともに、早期に出荷をすることができるとため、有利販売につながるメリットがある。



▲定植作業を行う様子



▲苗の生育は順調に進んでいた

ある。7月下旬には収穫が始まり、8月上旬より出荷される予定だ。

生産者の中澤浩さんは「育苗期間に晴れた日が多かったため、日照時間が多く、気温は高かった。そのため、苗の生育は順調に進み、定植作業は去年よりも一週間近く早い。ただ5月中は夜温が低くなる日があるため、気を緩めないように作業に臨みたい」と話す。

また、「今年の夏も気温が高くなる話を聞いているので、熱中症にならないように、こまめな水分と塩分補給、予防グッズの活用、高温時の作業は極力避けるなどの対策を行い、作業員の負担軽減を図りたい」と話した。

組 織 名	役 職 名			地区名	組 織 名	役 職 名			
	会 長	副会長	事務局			会 長	副会長	事務局	
広域米生産振興会	森本 豊	長澤 健次	中村 清人	早 来	米生産振興会早来支部	阿部 修一	川田 毅	戸坂 嘉伸	
				追 分	追分米生産振興会	長澤 健次	友広 博	中泉 英男	
				厚 真	米生産振興会厚真支部	早坂 信一	高橋 清吾	大島 裕孝	
				穂 別	JAとまこまい広域米生産振興会穂別支部	森本 豊	星 正寛	近藤 克之	
広域麦生産振興会	安井 貴志	荒城 一憲	三田 邦明	安 平	麦生産振興会安平支部	安井 貴志	高橋 良夫	中泉 英男	
				厚 真	厚真町畑作振興会麦部会	荒城 一憲	工藤 英暢	明石 啓嗣	
				穂 別	JAとまこまい広域麦生産振興会穂別支部	東 洋一	紀藤 康宏	大江 雅之	
				早 来	豆類生産振興会早来支部	高田 弘幸	宮本 義彦	原子 優斗	
広域豆類生産振興会	岩倉 啓一	高田 弘幸	上田 周志	追 分	追分豆類生産振興会	岩倉 啓一	谷口 龍治	開米 輝	
				厚真・穂別	厚真町畑作振興会豆部会	海沼 孝太	中田 峻平	明石 啓嗣	
				早 来	てん菜生産振興会早来支部	坂田 英樹	松原 信一	佐藤 雄二	
				追 分	追分てん菜生産振興会	大久保 悟	牧野 浩明	開米 輝	
広域てん菜生産振興会	大久保 悟	大蔵 巧	上田 周志	厚真・穂別	てん菜生産振興会厚真支部	大蔵 巧	植農林興発 木本 幹二	越後谷 直広	
				苦小牧	苦小牧市ハスカップ園芸作物振興会	斉藤 謙吉	長井 和宏	斉藤 克則	
				早 来	そ菜園芸振興会	竹葉 淳	宮本 義彦	清水 和人	
					いんげん部会	竹田 大介	楠野 公夫	清水 和人	
広域そ菜園芸連絡協議会	竹葉 淳	土屋 祐規 山崎 基憲	小寺 裕則		北海道21世紀村	出口 良助		清水 和人	
					そ菜園芸振興会	安井 貴志	西島 隆行	森山 拓	
			追 分	アサヒメロン組合	安井 貴志	林出 一樹	森山 拓		
				カンロ組合	友広 博	鎌野 太地	森山 拓		
				こぼろ生産部会	大久保 悟	高橋 浩司	森山 拓		
				厚 真	厚真町ハスカップ部会	山口 善紀	土居 元	村上 尊	
			穂 別	穂別営農振興会議	土屋 祐規	後藤 馨	窪田 剛士		
				ほべつメロン生産部会	後藤 馨	土屋 祐規	近藤 克之		
				むかわ町穂別馬鈴しょ原種生産組合	由布 龍哉		宮田 洋介		
				穂別アスパラ部会	柴田 健志	中澤 浩	遠藤 拓		
				穂別カンロ生産部会	小林 朋導	中村 由美	遠藤 拓		
				穂別長芋生産部会	土屋 祐規	由布 龍哉	窪田 剛士		
				穂別葉菜栽培研究会	清川 正	菊地 英智	近藤 克之		
				穂別にら栽培研究会	菊地 英智	中村 則彦	大江 雅之		
広域南瓜生産部会	石崎 憲一	丹羽 俊介	小寺 裕則	早 来	広域南瓜生産部会 早来支部	小谷 晁志	梅田 智之	清水 和人	
				厚 真	広域南瓜生産部会 厚真支部	丹羽 俊介	石井 幸秀	小寺 裕則	
				穂 別	広域南瓜生産部会 穂別支部	石崎 憲一	柴田 健志	富士野周平	
広域ほうれん草部会	竹葉 淳	上田 文夫 角地 渉	早坂 祐哉						
広域ブロッコリー部会	金谷 清万	大垣 勇人	坂口 元						
広域馬鈴薯生産部会	山崎 基憲	小泉 貴裕	黒畑 宏明						
広域加工馬鈴薯部会	中道 幸夫	近藤 健一	黒畑 宏明						
広域グリーンアスパラ部会	宮本 義彦	竹葉 淳	清水 和人						
広域花卉専門部会	斉藤 謙吉		早坂 祐哉	苦小牧	花卉生産組合	斉藤 謙吉	長井 和宏		
				追 分	花卉生産部会	水橋 勉	富永 勝利	竹山 幸司	
				厚 真	厚真町花卉部会	桐木 洋光	折坂 泰宏	早坂 祐哉	
広域いちご部会	山川 克基	小林 広和	坂口 元						
広域トマト部会	桐木 政三	沖田 善輝	村上 尊						
				安 平	安平町菜の花生産振興会	中道 幸夫	小西 克典	開米 輝	
広域畜産振興連絡協議会	富樫瑛一郎	小松 浩 松本 拓哉	木林 茂樹						
広域酪農振興会	松本 拓哉	城畑 伊藤 克考 雄太	剣持 拓史						
広域和牛振興協議会	小松 浩	阿部 高幸 浅野 美樹 大家 吉宣	居川 渉	白老・苦小牧	和牛生産改良組合	阿部 高幸	中村 俊太	上崎美古都	
				安 平	和牛生産改良組合	大家 吉宣	秋田 実	岡光 寛夫	
				厚 真	和牛生産改良組合	浅野 美樹	村田 尚洋	新岡 駿斗	
				穂 別	和牛生産改良組合	小松 浩	柴田 健志 上村 義昭	新岡 駿斗	
広域和牛振興協議会担い手部会	福島幸太郎	上村 将兵	居川 渉						
広域養豚振興協議会	富樫瑛一郎	清野 光弘	居川 渉						
もぎたて市部会	桐木 政三	富樫美紀夫 河村美枝子	川副 春哉						
広域青年部	石田 拓矢	小西 勇生 安井進乃輔 末政 知和 上村 将兵	川原 拓也	白老支部	広域理事 石田 拓矢	大浦 夕輝	井澤 佑介 天野 勝晶	松田 孝裕 三浦 凌	
				早来支部	広域理事 小西 勇生	宮本 悠揮	梶原 英俊	文字 玲雄	
				追分支部	広域理事 安井進乃輔	菅原 修介	橋本 祥彰	藤井 裕也	
				厚真支部	広域理事 末政 知和	高橋 健太	藤本 貴則 渡部 勇樹	吉野 智貴	
				穂別支部	広域理事 上村 将兵	中澤 誠弥	石崎 大知	宮田 洋介	
広域女性部	高林 清美	友広 由加	森山 妙	白老支部	広域理事 竹田 照美	吉田亜須香	中村 利香	本間登美子	
				苦小牧支部	広域理事 溝口 千晴	飯田 秀子	溝口 千晴	斉藤 克則	
				早来支部	広域理事 高林 清美	内藤 圭子	松原小夜子	且見 利奈	
				追分支部	広域理事 友広 由加	谷口 麻弥	富永小百合	下田奈穂子	
				厚真支部	広域理事 秋永 晴美	渡部美栄子	斉藤めぐみ	森山 妙	
				穂別支部	広域理事 中澤 珠美	宮崎 晴美	石崎代里子 田代 敦子	大頭 歩実	

ほうれん草部会目慣らし会・出荷原料説明会実施 出荷最盛期を前に 販売力強化に繋げる

JAとまこまい広域ほうれん草部会は5月14日、厚真町上野地区にある選果施設で出荷最盛期を前に共選原料受け入れに伴う目慣らし会を実施した。生産者18名のほかに、市場などの各関係機関などが出席した。

当JAとJAむかわは、東いぶり広域ほうれん草部会として同基準のもと両JAのそれぞれの施設で共選作業が行われている。平成5年から部会を立ち上げ共同出荷を開始し、高い選果基準や鮮度維持期間の長い梱包資材を用いて他産地との差別化を図り販売力強化に努めている。



▲選果基準のサンプルを見て学ぶ研修農業者



▲原料持ち込み基準を説明する担当者

同説明会で、担当職員から現物のほうれん草を用いながら共選選果基準の周知を行ったほか、持ち込まれる原料における注意点などが説明された。

同部会は、近年厚真町が独自に研修農場を開設し新規就農者の育成・支援など積極的に行っていることから、部会へ新規就農者の加入が続いている。目慣らし会でも多くの新規就農者が参加し、原料の受け入れ基準など概要説明を真剣に耳を傾け聞いていた。

前段では昨年新規就農の果たした郷野晃慈さん(41歳)のハウスを視察。その中で胆振改良普及センター東胆振支所の担当職員から基本的な管理の方法や今後発生が予測される病害虫の防除など説明がされた。

●

震災で被害を受けた農地完全に復旧 厚真町幌内沢地区で震災後初となる田植えが再開

JAとまこまい広域の厚真町幌内沢地区で5月20日、震災後初めてとなる田植え作業が高橋宥悦さん(59歳)の水田で行われた。2018年9月6日未明の北海道胆振東部地震により、同地区にある家屋や倉庫に加え農地に土砂が襲う被害に見舞われた。これまでは国の復旧工事などで土砂置き場として貸し出していたが、ようやく農業再開できる環境が整い6年ぶりに青々と育った苗が水田に植えられた。

田植え作業を行っていた息子の健太さん(31歳)は「ようやく面積が戻ってきて嬉しい。今まで土砂置き場となっていたので、圃場には石があったが機械で除去してもらったので順調に作業が進められている」と話す。

震災後、残る農地でメロンやカボチャなどを栽培し復旧を待っていた高橋さんだが、ようやく7haの農地が戻ってきた。幌内沢では震災の影響で6戸から4戸に農家戸数が減少する中、その一部を高橋さんが後を継ぎ耕作する。

当JA管内では、2,322haの水田に作付けし約12,100tの収穫を見込んでいる。



▲震災後初となる田植えを行う高橋健太さん

そんさんかがや 期待の農力



経営規模拡大を視野に入れ、 より効率的な農業を目指す



いちしま
市島

あきら
聡さん(39歳) 厚真町上野

北海道豊富町で生まれ育った市島聡さんは、厚真町の富野地区にある農業担い手センターで3年間農業の知識習得とホウレン草や南瓜など様々な品目を実践的に学び令和3年に就農。今年で4年目を迎えた。現在は約1haの畑でレタス、ミニトマト、カブ、青大豆を従業員1名と市島さんの二人で栽培管理する。

就農のきっかけ

豊富高等学校を卒業後、札幌の飲食店へ就職する。仕事の傍ら調理師免許を取得し16年ほど飲食業に従事した市島さんは「もともと料理が好きで飲食業の道へ進んだが、同じ野菜なのに味が違うことに気づき、徐々に料理を作ることから食材の生産へ興味に移り就農を決意した」と話す。

就農に当たって「知人などを介

し実際に新規就農した生産者の元へ出向き話を聞いて回った。最終的に情報提供してくれた生産者がしっかりと地域に根差していると感じた厚真町で農業をしたいと考えているようになり応募しました」と話してくれた。

農業のやりがい

就農早々には強風によってハウスが壊れてしまったり、大豆やトマトなどが害獣に食べられてしまったりと苦労を重ね、今では昔から繋がる飲食店などへ自ら食材を届けている市島さん。「お客様から継続して支持してもらえることや、直接野菜を美味しいと言ってもらえることが活力に繋がる」と話してくれた。また野菜の発送も行っており、遠方では九州まで届けているようだ。

将来に向けて

「ゆくゆくは水稻を始めたい。最低限の機械は既に揃っている。厚真町は米の町なので近隣で多くの農家が栽培しているのを見て、水稻栽培に意欲が湧いた」と話す市島さん。現在の野菜同様に水稻もオーガニックでの栽培を夢見るが「色々な要件が揃わなければ出来ないのは分かっているの、しっかりと慣行栽培を習得して基盤を固めたい。まずは一歩」と話してくれた。

理事会報告

令和6年5月8日(水)に総合営農センターで第5回理事会が開催され、次の事項について報告、承認がされました。



1. 一般報告と当面する諸行事について
2. 3月末財務報告について
3. 組合員の異動について
4. 固定資産の取得、処分について
5. 不稼働資産の売却について
6. 支所の日と固定資産確認・車両管理点検実施について
7. 令和6年度給与改定について
8. 決算監事監査の意見に対する回答について
9. 経営定期点検5年度改善事項の対応状況について
10. 准組合員加入促進について
11. JAバンク経営戦略シートの策定について
12. 令和6年度共済推進要領について
13. 令和6年度水稻作付け意向調査及び非主食用米配分について
14. 令和5年度穂別活性化基金の運用について



- 議案第 1 号 決算監事監査の回答について
 議案第 2 号 行政庁に対する業務報告書の提出について
 議案第 3 号 令和6年度ディスクロージャー誌策定について
 議案第 4 号 信用事業方法書の一部変更について
 議案第 5 号 JAバンク利用者保険など管理規程の一部変更について
 議案第 6 号 出資の減口と譲渡について
 議案第 7 号 理事への貸付について
 議案第 8 号 理事へのリース貸付について

楠野前JA代表理事専務の訃報

早来支所正組合員の前JA代表理事専務の楠野公夫様のご逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表すると共に心よりご冥福をお祈り申し上げます。

楠野 公男 令和6年5月8日にご逝去(享年77歳)

平成3年～平成13年 旧早来町農協理事
 平成13年～平成17年 とまこまい広域農協理事
 平成17年～平成26年 とまこまい広域農協早来地区担当理事
 平成26年～平成31年 とまこまい広域農協代表理事専務



さんさん あぐり講座

胆振農業改良普及センター東胆振支所

乳牛の暑熱対策

本格的な夏を迎え
「換気・送風」「飲水」「飼養管理」
について再度チェックしよう！

1 牛舎内の通気を良くしよう

換気・送風による対策は、風を直接体に当て乳牛の体感温度を下げます。牛舎内に効率よく外気を取り入れ、温度と湿度の両方を下げることが重要です。

2 換気・送風効果を高める工夫を

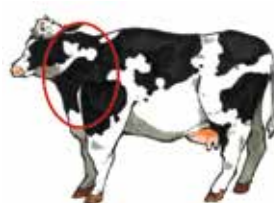
<送風機の清掃>

羽根に付着したほこりやクモの巣を取り除く。



<角度や位置の調整を行い、効果を再確認>

繋ぎ牛舎では胸元に風を向けると効果が大きくなります。フリーストール牛舎では飼槽前やベッドに風が当たり、強い風の当たる割合が多くなるように調整する。



胸元への風が効果的

<細霧(ミスト)の散布>

管内にも導入され始めています。効果や暑熱による損失等を考慮して検討してください。



細霧装置

風速と体感温度の関係

風速 (m/秒)	体感温度の 低下(℃)
1.0	6.0
2.0	8.5
3.0	10.4
4.0	12.0

3 いろいろな対策を工夫して

① 出入り口や窓に遮光ネットを張り、日光や畜舎に入る風の温度を抑制。



遮光ネットの設置例

② 屋根への散水や断熱資材を設置、牛舎内の温度上昇を防ぐ。



スプリンクラー設置例

③ 水槽の清掃、連続水槽の利用、水量、水圧の確認。清潔で新鮮な水をいつでも十分に飲める環境作り。



こまめな清掃

④ サイレージの品質確認と日当たらないように保管、サイレージの変敗を防ぐ。



臨時の水槽を設ける

⑤ 良質粗飼料に切り替えたり、切断長を短くし、無駄なく食い込ませる工夫。

(参考: ミルクの国とちぎ乳牛の暑熱対策マニュアル令和4年 <https://www.pref.tochigi.lg.jp/g06/nyugyusyonetu.html>)

ワンポイント営農情報

令和6年度 JAとまこまい広域試験概要(一部抜粋)

本年度、クリーン農業係がサポートする各種試験事業の取組み概要を紹介致します。
主に、増収に重点をおいた試験を計画しております。

作物名	試験内容
●水稲	幼穂形成期頃の追肥による収量増加効果検証 資材: 尿素・硫安(粒)
●秋まき小麦	既存の追肥量を少量多回数にすることによる増収効果確認 協力: 東京農業大学
●大豆	腐植酸施用による生育・根域・収量調査 資材: アグロリグSC 協力: 酪農学園大学
●南瓜	化学肥料使用量削減に向けた堆肥入り肥料の効果確認 資材: YCS257
●その他	「xarvio(ザルビオ)」ホクレンスマート農業実証試験

シリーズNo.50 おいしい米づくり

＝ 幼穂形成期の確認と、生育に合わせた水のかけひきを ＝

穂の基となる、幼穂の確認(右図)は稲に合わせた管理を行うためには重要な作業です。



北海道農産協会資料より

【幼穂形成期以降の生育日数の目安】

幼穂形成期～止葉期	18日程度
幼穂形成期～出穂・開花	25日程度
出穂・開花～収穫	45～50日程度

昨年、いもち病の発生が見られたほ場では、止葉期前に初発がないか確認をして下さい。

	幼穂形成期 の確認	止葉期耳間長の確認 (-5cm～+5cm)	出穂の確認
水田の水深	20cm 10cm 5cm		
幼形期後日数	幼形	5日目	10日目
发育段階	穂や穎が出来、花粉の基となる細胞も動き出す	花粉細胞が増え、肥大を続け花粉へと変っていく	薬の中で花粉の充実が進む
低温の影響	花粉の基の減少	花粉の退化・发育不良	出穂や開花の遅れ
水管理と効果	前歴期間 耐冷性を強くする 徐々に水深10cm 止水で日中の水温確保を優先する	冷害危険期 花粉能力低下による不稔を防止 徐々に止水出来る最大水深とする(目標18～20cm)	出穂までの中干し 登熟中の根の活力を向上 出穂始からの湛水 開花受精環境を整える

図 幼穂形成期からの水管理のポイント

